

令和 5 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は数日の周期で変化しました。6 日から 7 日頃に前線を伴った低気圧が日本海を進んだため、全国的に曇りや雨の天気となり、低気圧の影響を受けた北日本日本海側や湿った空気が流れ込みやすかった西日本太平洋側ではまとまった雨が降り、降水量は多くなりました。期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れた日が多く、湿った空気の影響も受けにくかった東・西日本日本海側と沖縄・奄美の日照時間は多くなりました。北日本から西日本にかけて暖かい空気が流れ込みやすく、また北日本を中心に上空の暖かい空気に覆われやすかったため、北日本、東日本、西日本の平均気温はかなり高く、北日本の平均気温平年差は +2.9℃で、1946 年の統計開始以降、4 月上旬として最も高くなりました。一方、沖縄・奄美では、期間の終わりに大陸から進んできた冷涼な高気圧に覆われて気温が平年を下回る日があり、平均気温は平年並でした。

中旬は、全国的に天気は数日の周期で変化しました。15 日頃には前線を伴った低気圧が本州付近を通過して全国的にまとまった雨が降り、19 日には沖縄・奄美で大雨が降った所があったため、降水量は沖縄・奄美でかなり多く、北・西日本日本海側と北・西日本太平洋側で多くなりました。沖縄・奄美では、期間の前半を中心に高気圧に覆われやすかったため日照時間はかなり多くなりました。南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、平均気温は北日本、東日本と沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高くなりました。

下旬は、全国的に天気は数日の周期で変化しました。低気圧や前線と高気圧が日本付近を交互に通過し、低気圧や前線の通過に伴い本州付近ではまとまった雨も降ったため、降水量は西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多くなりました。日照時間は低気圧や前線の影響を受けた西日本日本海側や西日本太平洋側で少なくなりました。一方、高気圧に覆われやすい時期があった北日本太平洋側で多くなりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響を受けにくかったため降水量は少なくなりましたが、湿った空気の影響で曇りの日が多かったため日照時間は少なくなりました。平均気温は、高気圧に覆われやすい時期があった北日本で高くなりました。

【4 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 13 ポイント高い 83%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.7℃小さい 2.0℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.5℃小さい 1.6℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の週間天気予報の利用にあたって】

梅雨の時期は、曇りや雨の日が多く、大雨が発生することもあります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むために気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって

農作物の生育不良などが起こります。週間天気予報からわかる向こう 1 週間の天気や気温の傾向を、農作物の管理等に役立ててください。